

専念寺通信

専念寺通信

八月号 (NO. 96)

天気予報を見るたびに、最高気温39度などという町の名前が報道されるという、例年になく暑さの日々が続いております。みなさま、おかわりなくお過ごしでしょうか。

☆お盆のご報告

今年のお盆は、入りの日が日曜にあたっておりましたので、入りの日だけで90件近い数の檀家さまがお墓参りにいらっしゃいました。入りの13日、午前11時より、新盆合同供養を本堂にてとりおこないましたが、この法要にも大勢の檀家さまが参列なさいました。さいわい、合同供養塔---静寂塔---の移転も無事完了し、皆さまにご披露することができました。少しずつ笹竹が茂り、静かな心やすまる空間ができあがってきています。(写真をご覧ください)

お盆の三日のあいだ、お参りくださり、暑い中、熱心にお墓を洗い、磨いて、心のこもった花束を供えている檀家さまに接すること、そして、玄関先で、少しのあいだお話しさせていただくことが私共にとっても貴重な時間です。

☆なぜ

生活に必要なものの値上がりが目立ってきています。世界的なオイル不足との説明から、ガソリンが非常に高くなり、その後、食料品、生活必需品の値上がりがはじまりました。まず、バターが店頭から消えました。1か月近くたって登場したバターは貴重品のように少しだけが棚にならび、とんでもない高値になっています。やがて乳製品のすべて、卵、

肉も値上がりしました。なぜでしょうか。オイル不足解消のため、穀物燃料を開発したところ、動物用の飼料にする穀物が不足したとのこと。灯油高のため、漁に出られない人たちが、ある日たまりまねて上京し、国会議事堂前までデモをしました。もはや、「漁に出れば出るほど赤字になる」という事態だったからです。長距離トラックは、税金を使ってできた立派な高速道路を走らず、速度を落として一般道路を走ります。なぜでしょうか。ガソリン代節約のためです。時間が長くかかるため運転手さんは車の中で仮眠ただけで、また帰りの荷を運びます。12日間自宅に帰らず移動するドライバーの記事が新聞に掲載されました。数年前のイラク戦争を覚えていますか。イラクには世界で2番目に大きい油田がありました。その石油は誰のものになったのでしょうか。「民主主義」

のための戦争だったはずですから、石油は民主的に世界のために使われたのでしょうか。サウジアラビア等の石油成金の異常に豪華な暮らしも報道されます。この世界のいびつさを思わずにいられません。イラクの死者、数十万人、石油の利権をとったアメリカ側の兵士の死者数千人、イラクから戻った兵士の自殺の多さも報道されています。「殺すなかれ、殺させるなかれ」の言葉が重い説得力を持ちます。平成20年8月1日

大黒

